

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

25号

2015年10月15日



目次

公益信託高知市まちづくりファンド 2015年度 公開審査会

書類審査

B「まちづくりはじめの一步」コース 2

書類審査を終えて

プレゼンテーション

C「まちづくり一歩前へ」コース 3

公開審査会を終えて 5

運営委員の紹介 5

公益信託高知市まちづくりファンド 2014年度 最終発表会

プレゼンテーション

B「まちづくりはじめの一步」コース 6

C「まちづくり一歩前へ」コース 7

D「まちづくり拠点整備」コース 9

最終発表会を終えて 9

「公益信託高知市まちづくりファンド」とは 10

今後のまちづくりファンド（予定）

公益信託 高知市まちづくりファンド 2015年度 公開審査会

2015年7月26日（日）開催の「公益信託 高知市まちづくりファンド」2015年度公開審査会には、応募団体、一般合わせて約41名が参加しました。

≡ B 『まちづくりはじめの一步』コース ≡

1 審査



事前の書類審査にて助成団体を選考し、公開審査会場で発表。

2 団体の活動紹介



助成対象となった団体による事業内容の説明。

■ 「まちづくりはじめの一步」コース結果 (助成先1団体)

グループ名		申請額 (万円)	助成額 (万円)
1	高知友の会	5	—
2	行川ホタルクラブ	5	5
助成額合計			5万円

団体の活動紹介

GROUP 2 ホタルと人々が集う水辺と里の再生プロジェクト

行川ホタルクラブ



行川地区には、30年ほど前に整備した池の跡があるが、現状はほとんど水も溜まっておらず雑草に覆われている。この頃は、ホタルを見かけることもめっきり減った。本事業では、行川を“ホタルの里”としてPRするために看板を設置したい。それにより、住民は行川にさらなる愛着を持てるのではないかと考えている。高齡化が進む中山間地域において、特性を活かしたコミュニティづくり・ブランド化の成功事例となれば、他地域への波及効果も大きい。

書類審査を終えて

副運営委員長 堀 洋子
(社団法人高知県建築士会)



B「まちづくりはじめの一步」コースには、2団体からの応募があり、そのうち、1団体の助成が決まりました。

「高知友の会」は、生活の基礎ともいえる衣食住や家計についての学び合い、とても大事な活動を継続されていると思います。ただ、運営委員会では、今回の事業がまちづくりといえるだろうか、具体的に地域を良くしていくことにつながるだろうか、という意見もありました。もう一度、事業の中身を見直して、地域や多様な市民との接点づくりをめざした取組みにし、再応募いただければと思います。

「行川ホタルクラブ」は、地域の活性化を目指した、広がりのある事業なので採択されました。しかし、元々池だったところに水はなく草が生え、自然の体系からいうと元に戻りつつあるということ。そこに、カワニナを放流し、ホタルを再生させることが本当にいいことなのかどうか。人が手を加え、環境を再生するというビオトープのような考え方もありますが、自然の再生にかかわっている専門家からのアドバイス等も踏まえ学び、事業を進めてください。

『まちづくり一歩前へ』コース

1 プレゼンテーション



事業内容を模造紙1枚に記載。3分以内でプレゼンテーションを行った後、3分以内で質疑応答

2 一次判断



各運営委員が、各応募事業について (a) (b) (c) の3段階いずれかの判断をする。
※(a) (b) (c) については下表参照

3 質疑



一次判断で (b) (c) が多い事業への質疑応答

4 最終判断 助成事業・金額の決定



各運営委員が、助成対象として推薦する事業を選び、過半数(5票以上)の推薦を得た事業が助成先に決定

■「まちづくり一歩前へ」コース結果 (助成先5団体)

グループ名	一次判断			最終判断		
	(a) 活動企画内容を支持し、今回のサポート助成が必要だと考える	(b) 活動内容についてもう少し話を聞き、今回のサポート助成が必要か判断したい	(c) 社会的に意義がある活動だが、サポートの助成趣旨にはなじみにくいと考える	今回の助成対象として推薦する	申請額(万円)	助成額(万円)
1 お城下ベース	■■■■■■ (6)	■■ (2)		●●●●●●●● (8)	30	30
2 高知駅北サイト「栄える」TOWN実行委員会	■■■■■ (5)	■■■ (3)		●●●●●●●● (8)	30	30
3 さくら会	■■ (2)	■■■■■■■ (6)		●●●●●●●● (8)	30	—
4 森の中の高知駅	■■ (2)	■■■ (3)	■■■ (3)	●●● (3)	30	30
5 大津子ども会連合会	■■■■■ (4)	■■■■■ (4)		●●●●●●●● (8)	30	30
6 学生コミュニティ防災支援センター	■■■ (3)	■■■■■ (4)	■ (1)	●●●●●●●● (8)	25.9	25.9
7 ひとつタネの物語	■ (1)	■■■■■ (4)	■■■ (3)	●●● (3)	30	—
助成額合計					145.9万円	

プレゼンテーション

※団体名上段の事業名末尾マーク … 1つは助成1年目、2つは2年目。

GROUP C1 こどもも大人もきてみいや お城下ベース



昨夏2014年7月、「こどもも大人もきてみいや」を合言葉に、大橋通商店街でコミュニティスペース「お城下(おまち)ベース」を開館した。人と人がつながる場所づくりを目指し、4つの内容を実践している。①子ども連れでも安心して街歩きや買い物ができる。②世代の違う人が集まることにより仲間作りができる。③子どもと保護者に寄り添い、子育ての情報収集・発信している。④学生の放課後居場所、(大人にとっても)クラブの部室的な場所になっている。実行への課題は、開館に必要な人員確保ができず休館が多くなっていること。

GROUP C2 新旧が融合し、元気に彩り「栄える」まちづくり 高知駅北サイト「栄える」TOWN実行委員会



イベントや体験型教室を通し、3世代が役割を持ちかわることにより「親子3世代プロジェクト」が進行中。昨年度の活動により、地域住民の親睦の深まりを実感できた。課題は他の活動団体との連携があまりできなかったこと、PRが不十分だったこと。今年度の目標は、①イベントでの防災コーナーの設置により、30年以内の発生確率60~70%と予測される南海トラフ巨大地震に向け、地域の消防団と協力し住民の防災意識を向上させること。②資金面で自立するため、地域のブランド化をすること。③他の団体と連携し、イベントや教室を開催することを計画。さらに活動を広げていきたい。

GROUP
C 3

地域の共助の力を高め、介護予防につなげる



さくら会



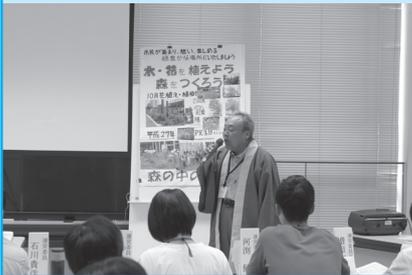
昨年度は、①友人や仲間と食事をする、おいしく食が進む。②共に食事をする、体の健康だけでなく心の健康につながり、地域の結びつきも高めた。③食事を作る手順を考えることは一番の脳トレになり、介護予防にもつながる、等の活動を行った。今年度は、①参加者を16名から25名へ増。②減塩（6g以下）レシピに取り組む。③リハビリキッチン手帳作成。④他地域にリハビリキッチンを広めたい。⑤参加できない人には、お弁当を届ける。

健康長寿を目指し、リハビリキッチン定着と「地域の共助の力を高め、介護予防につなげる」ため、顔の見える関係をつくり、コミュニティの力を高めていきたい。

GROUP
C 4

木を、花を植えよう、森をつくろう

森の中の高知駅



2009年1月、団体発足。高知駅周辺の緑化を行ない、景観を良くしている。掃除や草取り等の維持管理も含めた活動は、月1回帯屋町でピラ配りや月次活動報告を作成し関係各機関へ配布するなど広報している。「こうち旅広場」駐車場西側の空き地や3士志像前には植樹、電停西側には花を植え「みんなの庭」を作り、維持管理をしている。今年度は、11月頃、若い世代も多く利用している高知駅北側の簡易駐輪場脇に、沙羅双樹・ビワ・モミジ・ツバキ、高知市民の花トサミズキを約40本植樹予定。

GROUP
C 5

若者たちの活動を通して繋ぐ地域の輪。



大津子ども会連合会



昨年度の活動を通じて、「私たちは地域の一員」と気づき、1年の最後に、まとめの学習をして、課題や達成度を確認した。今年度は、この勉強会の継続・発展・充実をめざし、“デカ・カルタ”制作に集中し、高校生との連携を強化したい。そして、中・高校生たち自身が子どもたちのリーダー養成の企画運営に加わっていくことを目指す。地域の中で見守られ成長していくため、地域のスーパーや施設等に、出会いを求め、その中で社会性を身につけてもらいたいという願いを持ち活動していきたい。参加者の増加にも努めたい。

GROUP
C 6

防災ゲーム&ワークショップによる防災まちづくり



学生コミュニティ防災支援センター

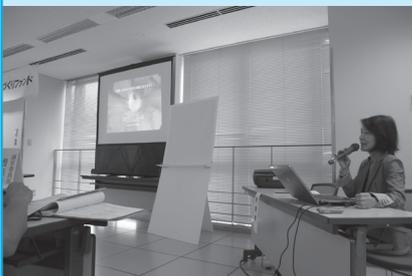


事業の目的は、誰でも楽しく学べる防災のツールを利用し、多様な市民と共に防災力を高めた地域をつくること。当団体は、防災の活動にかかわっている3大学（高知大学・高知県立大学・高知工科大学）200人弱の学生たちをコーディネートする。7月18日、江ノ口小学校で「わくわく防災ひろば」が開催され、3大学がブースを出し活動した。地域の消防団と連携し消火器訓練や防災マップ、防災カルタなど楽しく学び、生き生きと活動できるプログラムとなった。参加者は楽しく学び、子どもたちから親世代へも伝えていきたい。まずは江ノ口小学校区でモデルを作り、高知大学周辺の朝倉へも広めていきたい。

GROUP
C 7

朝顔（えがお）の花を広げよう

ひとつのタネの物語



3.11を忘れず“つながり”を大切に。東日本大震災後、「一滴の会」が被災地に贈ったピアノのお礼に、被災した幼稚園から朝顔のタネが届いた。ピアノがつかない絆の花として思いを込め“朝顔（えがお）”と呼ぶ。南海トラフ巨大地震発生が想定されている高知市で、朝顔の花に未来の希望を込めて育てた想いと優しい気持ちを多くの人に伝え、笑顔でつながる防災や危機管理の意識を育て、災害に強いまちづくりの一助としたい。朝顔を育て続けることで命の大切さ、尊さを学ぶ場をつくっていききたい。日頃からの人的ネットワークを作り、心の防災意識を育て災害に強いまちをつくることを目指す。

二〇一五年度 公開審査会を終えて

運営委員長 増田 和剛 (高知中学高等学校 教諭)

二〇一五年のスタートという機会に、いろいろな発表を聞かせていただき、事業のほかに「育成」というキーワードが含まれていると感じました。時間がかかる「育成」であるが故に、長期展望を持って活動を続けていくという、とても難しい部分が発表に盛り込まれていたのではないのでしょうか。

中でも一番強く感じたのは、活動をいかに広げていくかということです。惜しくも助成されなかった「森の中の高知駅」や「ひとつのタネの物語」は、小さな活動がタンポポの綿毛のように広がっていくという、いま非常に少なくなっている心の部分が活動の中に取り入れられています。「おそらく、これには終わりが無い」という話をされていました。私もそう思います。景観をつくっていくことにも終わりはありません。活動を広げていくためには、人がかかわっていくかなければ、はじまりません。人が関わりつづけることで、組織づくりや高知らしさも出てくるのかなと期待しています。

育てるためには、継続をしていかないとけません。さらに、自立をしていくことも計画の中に入れ、活動していかないとけません。「おそらく大丈夫だろう」という計画の中には、「おそらく終わるだろう」という答えも出てくると思います。あまり背伸びせず、少しずつ前進しながら、身の丈にあった活動をしていくのがいいと思います。また、若い世代へバトンを渡していきながら世代交代していくこと、これはもう絶対必要だと思います。

この一年間、助成された団体は、企画に基づいて、計画を立てながら事業を育ててください。団体を含めて、さらに地域も育ててください。

残念ながら、今回はA「学生まちづくり」コースとD「まちづくり拠点整備」コースに、応募がありませんでした。来年度また挑戦できるように、皆さんも含め他の団体の方々にもお声掛けしていただけたらと思います。私たちが重要視しているのは、公益性です。これが、大きいところではないかなと思いますので、ぜひその点を含め頑張ってください。

2015年度

公益信託高知市まちづくりファンド 運営委員の紹介

今年度より、新たに2名の
運営委員が就任されました。



運営委員長
増田 和剛
高知中学高等学校
教諭

まちづくりには、活動に対する情熱とビジョンが必要です。すぐ見える結果や関わることでわかる現実など、活動には様々な問題が現れます。そして、現れた問題に対して、活動の向かう方向性を一つ一つ検証しながら、時間をかけ最終着地点を描いていくことも活動の一つだと思います。



副運営委員長
堀 洋子
(社) 高知県建築士会

昨年度助成のうち3団体のまちファン卒業が有りました。今年度の助成5団体の中で3団体が3年目の卒業を目指し、活動より問題点を拾い上げ、ステップアップと継続事業の2年目に取り組みられています。又、若者によるまちづくりも3団体より高知のまちづくりに心強く思いました。



運営委員
池 美保子
高知県立大学社会学部

公開審査会に参加された皆様、お疲れ様でした。今年もいよいよ新しいまちづくりの活動が暑い夏と共に幕を開けましたね！これから1年間、試行錯誤しながら活動を進めていくことになると思います。迷った時や困った時は、公開審査会の初心を思い出し、1年後に成果を出せるように取り組んでいただけたら嬉しいです！



運営委員
石川 貴洋
認定特定非営利活動法人
環境の社こうち 事務局長

審査で最も悩むこと。それはその活動は「まちづくり」か？まちづくり活動とは？調べると様々な解釈があって、定義ににくい、モヤッとしたもののようなのです。各委員で違う「まちづくり」の重なる内側か外側か。それが審査結果です。あなたの「まちづくり」とは、重なりましたか？



運営委員
片岡 武志
高知市長浜ふれあいセンター
センター長

今回初めて運営委員として公開審査会に出席させて頂きました。各団体の色々な目的を持って熱心に取り組まれている活動状況を聞かせて頂き大変勉強になりました。今回、残念ながら助成対象とならなかった団体につきましては、是非、次回に再度チャレンジして頂きたいと思っています。



運営委員
河渕 健
高知大学人文学部

今回、初めて、こうまちづくりファンドの運営委員をさせて頂きました。分からないことだらけでしたが、他の運営委員の方々にサポートして頂き、微力ながらお手伝いさせて頂きました。貴重な経験をさせて頂いたので、次回はもっともっとレベルアップして、今回よりも、より多くの貢献ができればと思います。



運営委員
四宮 成晴
四宮計画事務所

“公開審査会”、まちづくりというものを真摯に考えるよい機会となっております。そこに住まう住民のオモイを、住民と行政、企業・団体、そして市民活動団体、それぞれ社会に果たすべき、あるだろう役割を発揮しながら、新しいチカラを生み出す・・・応募団体の熱いオモイを聞きながら、これが真摯なまちづくりなんだろうな～と。



運営委員
宮地 貴嗣
ラ・ヴィータ 宮地電気(株)

高知市まちづくりファンドは、高知市民の皆様のお金を集めたお金から助成しています。今回承認された事業とされなかった事業の分け目は、自分たちの自己満足ではなく、多くの高知市民にとって価値、意味があるかどうかということです。これからもファンドの申請が増えることを楽しみにしています。

公益信託 高知市まちづくりファンド 2014年度 最終発表会

2015年7月25日（土）開催の「公益信託 高知市まちづくりファンド」2014年度最終発表会には、応募団体、一般合わせて約63名が参加しました。

卒業

C「まちづくり一歩前へ」コースは、1事業3回まで助成を受けることができます。

「こうちネットホップ」「高知街ラ・ラ・ラ音楽祭実行委員会（2012・2013・2014）」「Sunday Market Supporters」は、2012～2014年度と連続助成を受け、ファンドを卒業することになりました。

今後のさらなるご活躍を期待しています。



こうちネットホップ

高知街ラ・ラ・ラ
音楽祭2014
実行委員会

Sunday Market Supporters

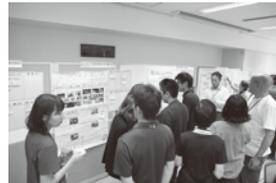
B 「まちづくりはじめての一歩」コース

1 プレゼンテーション



助成先団体が事業の報告を模造紙1枚にまとめ、発表
B・C・Dコース 3分間

2 意見交流



運営委員や参加者からの感想、または質疑に対し、助成先団体が応答

GROUP 「災害～まちの再生」

B 1 高知の街を考える十八会

昨年（2014年）10月18日、市民対話「災害～まちの再生」を開催（39名参加）し、この講演内容のDVDを制作した。このDVDを市民に提供することは、災害に対しての準備だけでなく、市民啓発の新しい切り口となるのではないかと。市民が自ら考え、まちづくりの魅力を知ることができるのではないかと。「市民復興」から被災を前提にした「事前復興」のまちづくりへ。市民が自発的に行動することにより、行政との協働も可能になるのではないかと。私たちは、素晴らしい自然の中で安心安全に、笑顔で生活できるまちづくりを目指している。



■参加者の声■

- ・市民が主体となって、事前復興を考える町づくりはとても大切なことだと思います。
- ・意識はあっても、実践できないところを積極的に取り組んでいる。
- ・紙芝居プレゼンテーション、分かりやすく良かった。
- ・よさこいのつながりをうまく使えるとステキだと思います。

GROUP 高知家アロマでお遍路さんに足湯のおもてなし！

B 2 高知アロマボランティア団体ふわり

1月の中間報告会后、お遍路さんのみにこだわらないおもてなしを検討し、ハンドマッサージのボランティア訪問をしている高知市内の介護施設等で50名のほの方々に足湯のおもてなしができた。足湯の実施により①地域とのつながりができた②ボランティア団体としての活動範囲が広がった③高齢者などの喜ぶ顔も見ることができた。今後も高齢者への足湯は継続していきたい。脚を出すことに抵抗感がある方も多いので、地産地消のアロマを使用したハンドマッサージを月一回程度、同じ会場で実施する。高知家アロマでのおもてなしは、継続していきたいと考えている。

※助成金の返還 10,783円



■参加者の声■

- ・うまくいかない時、次の展開があり良いですね！アキラメナイ気持が大切。
- ・高齢者が喜ぶ顔を得られたことは一定の成果と考えます。
- ・お遍路さんが多く利用する施設との連携をはかることができれば“足湯”などが定着しそうですと思いました！！

『まちづくり一歩前へ』コース

GROUP 地域の共助の力を高め、介護予防につなげる

C 1 さくら会

リハビリキッチンでは、楽しく運動と栄養を組合せて考える取り組みで、何を、どれだけ、どのように摂取するかを実践している。リハビリキッチンの導入により健康長寿や、顔の見えるコミュニティづくりを目指している。食後のサロンでは、参加者相互の交流もあり、不参加の方を気遣うなどコミュニティ機能も徐々に高まっている。開始直後から比べると会員数は増え、食に対する意識の変化もみられるが、毎回の参加者は目標に達していない。地域で、より一層の拡がり、コミュニティ力を高める必要がある。“一人が元気になることで地域も元気になる。”最大の成果は、団地内で人と人がつながりはじめたこと。



■参加者の声■

- ・「一人が元気になる、と地域が元気になる」の一言に活動が表れていると思った。
- ・講習会は賑わっているように見えて人と人の新たな繋がりが生まれそうだった。
- ・こんなサロン活動が高知に広まると一人暮らしのお年寄りも安心ですね。
- ・高齢世代以外も一緒にできたら、とても楽しそうです。

GROUP 食べることから始まる、元気なまちづくり

C 2 高知県リハビリテーション研究会 「食を考える委員会」

食べることから始め、人と人とのつながりを大切に、住み慣れた地域で元気に暮らすサポートをする活動を続けてきた。今年度は、25年度に作成したレシピ集の販売、食支援のための講習会および簡単レシピ実習を実施。特に、講習会の成果は、①対象を居宅サービス事業所スタッフに加え家族や一般まで広げたことにより、在宅の食に関する現状と課題が見えてきた。②食べること、栄養の大切さを啓発することができた。来年度は、レシピ集を活用し公民館や在宅現場に向いていけるよう活動現場を広げていきたい。食事環境を整えることで栄養状態やADL低下を防ぎ、住み慣れた地域で元気に暮らす、元気な人、元気なまちづくりを目指す。



■参加者の声■

- ・幅広い人が対象となりやすい間口の広さを感じます。
- ・食事制限がある高齢や介護する家族・スタッフが食事の楽しさを取り戻せるような内容になっていて、いいなと思いました！
- ・講習会の成果がきちんと出ていることは、助成金活用成果と思う。
- ・食の大切さを知る機会があるのは良いことと思いました。

GROUP みんなで考えるホームレス支援と貧困問題

C 3 こうちネットホップ

3年間、高知市のホームレス支援に取り組んできた。背景には、生活課題の多様化や深刻化ということがある。活動は、夜回り（訪問）を中心に講演会や学習会、会報の発行等。夜回りでは多くの参加者が集まり、いろいろなホームレスの方と出会えた。大学生等の若い世代の参加も増えた。今年度は、3回の講演会（参加合計115名）、夜回り活動に加え昼回りも随時行なった。活動時間や範囲を広げ、他の市民活動団体との連携による困窮者支援ネットワークの形成を図ることができた。生活困窮は誰もが直面する課題であり、地域の中の垣根を外しながら、安心して暮らせる地域づくりのためのネットワークに少しでも寄与したい。



■参加者の声■

- ・活動内容、多様性があります。
- ・様々な手段をとっているのは、すごいと思います。
- ・他団体との連携を積極的にされて、ぜひ参考にしたいです。
- ・これからも続けてほしい。
- ・たくさんの方に、この活動を知ってもらえるといいですね。

GROUP 音楽の力で まちを元気に！

C 4 高知街ラ・ラ・ラ音楽祭 2014 実行委員会

3年間助成を受けたことにより“まちファン”を通じたつながりが生まれ、参加者層が広がり、高校生バンドの出演が定着。また、観客目線になることが、人の流れに沿った会場や通りからの動線検討の契機となり、ステージのレベルアップや各会場の見直し、観客増へつながった。今後の課題は、①“まちファン”卒業とともに今あるつながりを維持し、さらに広げる。②ラ・ラ・ラ音楽祭がグレードダウンしないように財源を確保する。③今回の飛び入り会場が、まちににぎわいを創出し他団体との新たなつながり方を見つけたように、まちを元気にする新しい企画や運営を担える若手の実行委員を育てる。



■参加者の声■

- ・他団体ともコラボしていたのが良かった。元気な発表で気持ち良かったです。
- ・高校生の参加は新たな担い手、という意味でもいいですね。
- ・音楽でつながる町ってすてきです。これからも、その輪が広がりますように。
- ・市民への定着も進んで、今後、より楽しいイベントになりそうですね。

GROUP 若者たちの活動を通して繋ぐ地域の輪。

C 5 大津子ども会連合会

子どもたちと一緒に、季節に応じたイベントを月1、2回行いながら繋がりを作ってきた。今年に入り、公民館を活動場所にしたことにより、地域の方々から見える活動になった。5月の「すくすくよい子が育つまちづくり」フォーラムでは、“まちづくりは人づくり”の基本を共通理解し、子ども会の果たす役割を学んだ。大人と子どもの懸け橋となるような中・高校生たちの協力も増え、徐々に、地域の大人が子どもの顔を知っている、地域の子どもの大人が顔を知っているという状況になり、子どもたちが暮らしやすい環境が整ってきた。しかし、まだ目標に向かう道の途中である。

※助成金の返還 11,616 円



■参加者の声■

- ・地域においても学校とは違う場で子どもの居場所作りをされているところがよい！
- ・地域の中で子どもが生きる力を支える取り組みが素晴らしい。
- ・まちづくりの基本、地域づくりが動き出しましたね！
- ・こどもが地域に溶けこめるきっかけになっている！大人と子供が皆知っているというのは昔の（良き時代の）日本みたいでなごみますね。

GROUP 若者による土佐の日曜市の活性化

C 6 Sunday Market Supporters（略称：SMS）

具体的なまちづくりの効果は5点。①日曜市の食材・商品を使ったPRは、日曜市の売上アップにつながる。②出店者サポートや交流は、販売意欲が高まり継続につながる。③季節イベントや休憩所内での楽しく過ごせる場づくりが、新規来店者やリピーターの獲得へ繋がる。④Facebook や各種メディア等での情報発信は、日曜市に興味を持ち訪れるきっかけを生み出す。⑤SMSが大学生や高校生と日曜市との橋渡しをすることは、次世代が日曜市を好きになる契機になる。今後、日曜市ガイドツアーの開催、また商品開発・企画を通し、自分たちで財源確保の手だてを考えていきたい。そして、次の世代に繋げていきたい。

※事業内容縮小による助成金の返還 135,804 円



■参加者の声■

- ・日曜市が、若い人のサポートでますます盛り上がる様子、イネ。
- ・学生が地域に入ることで、元気な地域づくりにつながっていると実感。
- ・プレゼンがピカイチでした。とてもわかりやすく、久しぶりに日曜市に行きたい！と思いました。
- ・季節を感じられる活動がいいですね。

GROUP 要約筆記で情報バリアフリーのまちへ！

C 7 NPO 法人 要約筆記 高知・やまもも

今年度実績は、要約筆記派遣依頼59件、その他の要約筆記活動9件、総計68件。民間団体からの依頼は少ない。難聴者・中途失聴者におけるコミュニケーション手段は、手話よりも「筆談・要約筆記」が多く活用されるが、社会的認知度は十分でない。本事業により、遠隔情報保障への手応えを感じたが、要約筆記が社会に認知され、実績を挙げていくことが本当の成果となる。そのためには、活動の実践場所を広げ、進化するITを活用し情報獲得への多様なニーズに応えられる体制づくりを行う必要がある。行政や福祉関係機関にも働きかけながら、要約筆記がより身近で「役立つもの」となるよう、障害の有無や年齢を問わず社会整備として位置付けられるよう目指す。

※助成金の返還 27,337 円



■参加者の声■

- ・情報バリアフリーにより、誰もが参加できるまちづくりに大きな貢献をされています。
- ・アンケートからの見直しを次の活動につなげている事が良いですね。
- ・遠隔情報保障、手元で見られる要約筆記へと進化され課題も多いと思いますが大切な活動。
- ・中間発表でも遠隔操作を見て、すごく感動しました。広がってほしいです。

GROUP 新旧が融合し、元気に彩り「栄える」まちづくり

C 8 高知駅北サイト「栄える」TOWN 実行委員会

助成事業として取り組み、“まちづくり”について考えるようになった。それが、単なるイベント開催ではなく、「3世代プロジェクト」というテーマをもって活動しようという想いに繋がっている。体験型教室等の開催は、地域住民と町外からの来訪者が交流する場を創り出している。今後、親交型まちづくりの幅を広げる取組みを行いたい。また、地域の消防団とも連携し、住民の防災意識のさらなる向上を図っていきたい。“まちファン”で出会った“NPO 法人地域サポートの会 さわやか高知”、さらに近隣の保育園や各学校、他団体とこれまで以上に連携を深めていきたい。助成事業終了後の財源についても考えていきたい。



■参加者の声■

- ・地域の老若男女の交流と輪を広げていける。すてきな活動続けてください。
- ・イベント型まちづくりから地域づくりへの移行（気づき）が良いですね。がんばって継続してください。
- ・親子3世代プロジェクト！ネーミングがまずグッときました！今って、3世代家族が少ないので、どンドン世代間の繋がりを深めてほしいです。

D 「まちづくり拠点整備」コース

GROUP
D 1

高知市北部地域支え合いの拠点づくり

NPO 法人 地域サポートの会 さわやか高知



「サロンさわやか」という拠点ができたことにより、活動が広がったことを実感している。会は当然ながら、地域の人、社協、ソーシャルワーカー、他のNPO、学生等との連携がより強固になり活動の幅も広がった。また、自然発生的にさまざまなサークルや勉強会等が誕生した。出入りしている人たちが、得意分野を活かし学び合う姿も多く見られる。人が集まれば、地域の情報も集まってくる。最高齢88歳のボランティアも活躍している。子どもたちの居場所としても使われ、高齢者との交流も生まれている。今後、異世代交流も実現させたい。いつでも誰でも自由に利用できる拠点が、市内あちこちにできれば「地域住民が安心して暮らせる支え合いの社会づくり」の実現に一步近づくことができると確信している。課題は、運営基盤の整備と人材確保だが、一方で自主努力だけでは限界も感じている。

■参加者の声■

- ・子どもから高齢者まで幅広い世代の居場所づくりをしていて、素晴らしいです。
- ・学生とのつながりなど、若い世代も関わっている点が良いと思いました！
- ・みんなが役割を持てるのがいいですね。
- ・普通のサロンと違って、支援する人とされる人が分けられていないことがよい。
- ・今後の人材確保、どういう方法で解決しようと思っているか？

二〇一四年度 最終発表会を終えて

運営委員長 増田 和剛

(高知中学高等学校教諭)



●継続するチカラ

子どもたちが主人公の「こうちこどもファンド」

(以下、「こどもファンド」)は四年目に入りました。

「こどもファンド」で助成を受けて活動をし、こども審査員(小学四年〜高校三年)として経験を重ねてきた子どもたちは、将来、「まちづくりファンド」で運営委員や助成団体の一員として活動できるチカラを十二分に蓄えています。「こどもファンド」から「まちづくりファンド」へという流れができれば、高知市のまちづくりは継続していくに違いありません。

二〇〇三年からはじまった「まちづくりファンド」は、今日の最終発表会で九十二年となりました。一方で、ファンドの限界は近づいています。これまで、ほとんど寄付を得られなかったため、基金を取り崩しながら助成されています。ファンド自体が成長するために、助成を受けられた皆さんの意見も聞かせていただき、「あるものを使う」だけでなく「あるものを使いながら、どうすれば継続していきけるのか」ということを、模索していかなければならないと考えています。

●「ファンドを育てていただけましたか？」

育ててもらっている(助成を受けられた)団体は、次の団体、その次の団体へと継続していくため、今度は育てる側にまわっていただきたいと思えます。ファンドにより活動を充実させた多くの団体が、相互に学びあい育ちあう関係も重要になってくるのではないのでしょうか。

意見交流の際には、付箋に意見や質問・提案等が多く書かれました。これは、「まちづくりファンド」の助成を受けられた団体の皆さんが、活動に対し多くの興味や関心を持っている証拠です。それぞれの団体が、

とても難しい問題に携わりながら、さらに、その中で関わりを見出し、こうとする、気概が伝わってきます。

この活動を継続していくために、それぞれの活動の中で、今ある課題や次へ繋げていくきっかけを見つけてみてください。次へ繋がるため、明日からもこの活動を続けて広めてください。

●「まちづくりには、人と人をつないでいくことが大事

ひとづくりは、内輪(自分たちの中だけ)ではなかなか広がりません。地域の中で活動している団体もあれば、団体として地域に乗り込んでいく活動もあります。人集めに苦労している団体など、いろいろな問題もあるわけです。そのような問題を共有することも、まちづくりには非常に大切なことです。

人と人をつないでいくためには、今後の少子化に向けての大きな問題もありますが、まずは、いま元氣な私たちが活動を見せていくこと、その中に巻き込んでいくということが、次の世代へ繋げていく一つのきっかけになると思っています。

●「共育」ということ

まず「自分たちが取り組んでいる活動に対して自分たちの団体が育っているか？」を、この最終発表会を機に少し考えていただけたらと思っています。今日は、通過点ですが、次へどう繋がっていくかを考えるには大事な一地点です。さらに、内容はもとより費用の割り振りや収支などを整理していくことが、活動を継続していくことにも繋がります。

最後に、活動の振り返りと情報の共有化は重要です。それから、キョウイクは教え、育てる「教育」ではなく「共育」です。共に育っていきましょう。

公益信託高知市まちづくりファンド

助成コース紹介

A：「学生まちづくり」コース

活動の第一歩を踏み出そうとしている、または、活動が定着していない学生団体の活動を支援します（構成員のうち3名以上が18歳以上の学生であること）。

助成金額 上限5万円

審査方法 書類審査で助成先を決定します（助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます）。

B：「まちづくりはじめての一步」コース

活動の第一歩を踏み出そうとしている、または、活動が定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額 上限5万円

審査方法 書類審査で助成先を決定します（助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます）。

C：「まちづくり一歩前へ」コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援します。1事業3回まで助成を受けることができます。

助成金額 上限30万円

審査方法 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

D：「まちづくり拠点整備」コース

まちづくりの活動拠点を整備する事業を支援します。

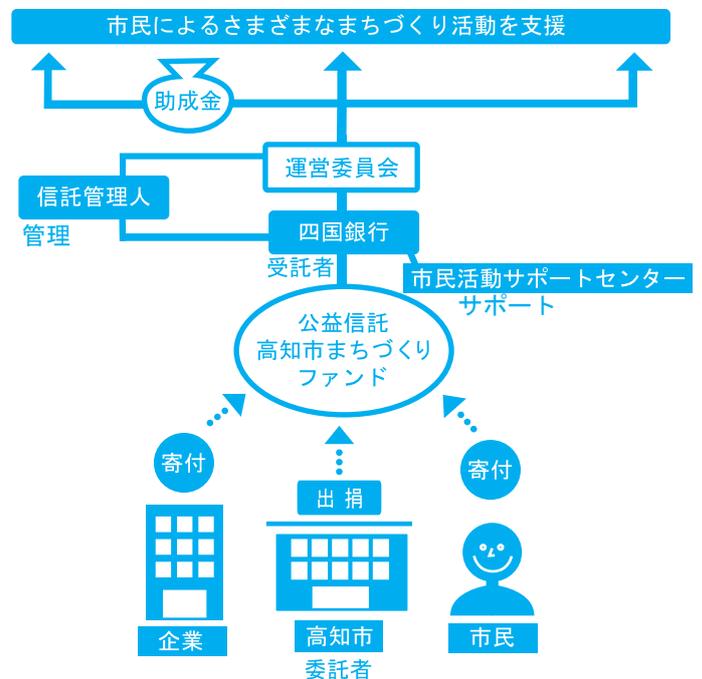
助成金額 上限100万円

審査方法 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

お問い合わせ先

高知市市民活動サポートセンター TEL:088-820-1540

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、まちづくり活動団体への助成を目的に、2003年5月、高知市が四国銀行に3,000万円を出捐（しゅつえん）して創設、また、2012年4月、改めて3,000万円を追加出捐しました。助成先は公開審査会で決定し、透明性の確保とともに、市民同士の交流や、まちづくりの学びの場となることを目的としています。公益信託「高知市まちづくりファンド」の11年目となる2013年度からは制度を一新し、より利用しやすい助成金制度に変わりました。これからは多くの人にまちづくりに興味をもってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営をめざしています。



高知市市民活動サポートセンター 市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。運営を「認定特定非営利活動法人NPO 高知市民会議」が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。

まちづくりファンドは皆様がまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐（しゅつえん）された基金は、毎年取り崩しながら助成していくこととなります。少しでも永くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に活かされるように、多くの皆さまのご寄付をお願い致します。

寄付に関するお問い合わせは、
下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行 お客さまサポート部 信託担当
電話：088-871-2308（直通） 〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1

今後のまちづくりファンド(予定)

B「まちづくりはじめての一步」コース・C「まちづくり一歩前」コース

中間発表会	2016年1月24日（日）
最終活動報告書の提出期限	2016年7月4日（月）
最終発表会	2016年7月23日（土）

発行 高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
【TEL】088-820-1540 【FAX】088-820-1665
【E-mail】npkochi@siminkaigi.com
【URL】http://www.kochi-saposen.net/